

## 地域との連携による魅力ある学校づくりと SGH を活用したグローバル人材育成について

研究代表者：滋野 哲秀（社会学部）

共同研究者：大西 俊弘（理工学部） 多賀 優（農学部）

---

### I 調査の概要

「未来を変えた島の学校——隠岐島前発 ふるさと再興への挑戦」という書籍や NHK の「視点・論点」でもその取り組みが紹介された島根県立隠岐島前高校。島根県がすすめる「離島・中山間地域の高校魅力化・活性化事業」の取り組みにより、島外からの入学希望者が募集定員の 2 倍という人気校となり、全国から生徒が集まっている。また、高校のある海士町には高校入学をめざす生徒だけでなく UI ターンによる一家転住者も増加している。現在、隠岐島前高校は、「地域活性化の一翼を担う高校づくり」というコンセプトのもとで高校の魅力化に取り組み、2015 年度からは、スーパーグローバルハイスクール (SGH) の指定を受け、島前高校の取り組みは第二ステージに入ったともいえる。

今回の訪問調査では、高校の取り組みだけでなく、教育を中心に据えて地域の活性化に取り組んできた町の取り組みも調査するため、高校と隠岐國学習センター、地元の海士町立海士中学校を訪問し、入学者の V 字回復の要因である「地域資源を生かした教育カリキュラムの導入」「全国から生徒を呼ぶ島留学」など、地域と学校の協働による独自の取り組みが地域づくりにどのような効果をもたらしているのか調査した。

### II 訪問調査から

「隠岐國学習センター」は、隠岐島前高校と連携した町営塾であり、本学、社会学部コミュニティマネジメント学科の 4 回生が 4 月から卒業研究を兼ねて 1 年間「隠岐國学習センター」で学習指導を行いながら研究を行っている。今回はこの学生に案内してもらいながら視察を行った。「隠岐國学習センター」は、古民家を高校生のデザインでリニューアル

ルした施設で、様々な工夫が凝らしてあり、とても落ち着いた快適な学習施設である。高校の寮からも近く、自由に自習できる空間や学習図書などが整備され、18時30分頃には高校生で一杯になっていた。出身地を聞くと岩手県や福岡県など様々である。学習センターの職員は、高校教員や中学校教員と協力しながら生徒の学習支援を行っている。センター長、副センター長ともに Benesse 社員からの転身者で、町の取り組みに賛同してこの道に入られたそうである。宿舎では、高校の「地域学」という授業で、商品開発の研究をしている神戸出身の高校生にも出会うことができ、私たちに「客として陳列されている商品をどう思うか？」と意見を求められた。

二日目は、地元の海士中学校を訪問した。中学校の校長は、「かつて自分が学生の頃、離島の出身であることが恥ずかしくて人に言えなかったが今は誇りに思う」と話し、町の取り組みを語ってくれた。町職員の間で、「できない」は禁句だそうで、町長は小学生の提案も取り上げるそうである。中学校の職員名簿には、コーディネーターという職があり、これは町が独自予算で配置した職員である。2015年12月の中教審答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」の第3章には、「地域コーディネーター」の役割が述べられているが、海士町ではすでに小中学校にこの職が配置され、地域との連携が進んでいる。校長によれば、「教員とは異なる発想で地域と学校をつなぐ役割を果たしてくれる頼もしい存在」とのことであった。また、学習センターの職員は、小中学校を訪問し、指導も行おうそうであり、学校と学習センターが上手く連携しながら取り組みが動いていることを実感した次第である。

### Ⅲ おわりに

隠岐島前高校は、文部科学省が進める ESD (Education for Sustainable Development) 「持続可能な開発のための教育」の事例としても取り上げられている。さらに、県費負担の社会教育主事が高校に配置されるなど様々な観点から学校づくりの事例として参考となる点が多数あり、今後の取り組みに注目したい。

今回の訪問に際して、公務多忙な中、対応していただいた海士町立海士中学校の校長先生、教頭先生、隠岐国学習センター（町営学習センター）の皆様にご心より感謝申し上げます。